

II 基本目標

1. 将来像

大和郡山市第4次総合計画において、平成37年（2025年）を目標とした本市が目指すまちの「将来像」と、本市が変わりなく持ち続けるべき「まちづくりの基本方針」が定められており、これらに基づく基本目標を設定する必要があります。

また、人口ビジョンに示す「目指すべき将来の方向」も考慮する必要があります。

【大和郡山市第4次総合計画における将来像・まちづくりの基本方針】

■将来像

大和郡山市では、「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町。」をまちづくりの指標として掲げ、地域の個性である豊かな自然や歴史・文化などを十分に生かし、市民がお互いの人権を尊重し合い、共通の誇りを持ち、心豊かに暮らすまちを目指してきました。

今後とも、これまでの基本的な姿勢を保ちつつ、平成37年（2025年）のまちの姿として、次の「将来像」を定めます。

あふれる夢と希望と誇り 暮らしてみたくなる やまごおりやま 元気城下町

■まちづくりの基本方針

- ① 夢と誇りがもてる、過去と未来をつなぐまちづくり
- ② 信頼と協働が育む、次世代を切り開くまちづくり
- ③ 誰もが住みたくなる、働きたくなるまちづくり

【人口ビジョンにおける目指すべき将来の方向】

基本姿勢1 若い世代、子どもを生み育てる世代を増加させる

基本姿勢2 地域の魅力アップ、暮らしやすさを向上させる

基本姿勢3 市民・事業者、みんなが主役のまちづくりを進める

①若者の転出抑制・転入促進を進める

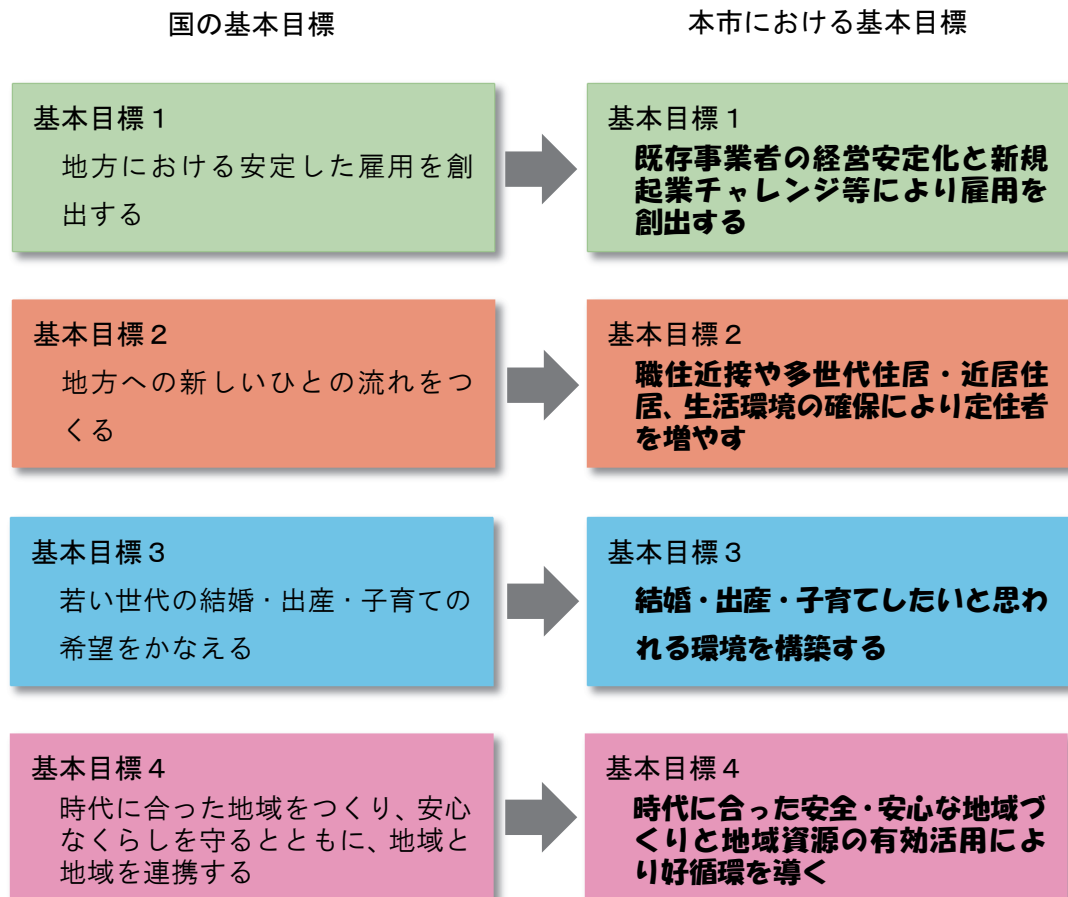
②職住近接により転入を進める

③生み育てたくなる環境を構築する

④市民・事業者がチャレンジできるまちづくりを進める

2. 基本目標

まち・ひと・しごと創生法に基づく国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策構成を踏まえるとともに、大和郡山市第4次総合計画において位置づけられている「戦略目標」を踏まえ、総合戦略における「基本目標」を次のように設定します。



(1) 既存事業者の経営安定化と新規起業チャレンジ等により雇用を創出する

① 数値目標

指 標	現状値	目標値
市内従業者数	平成 26 年 37,742 人	平成 31 年 38,500 人

② 基本的方向

市内の各種産業の既存事業の経営安定化や、新たな商品開発や事業分野への展開を支援するとともに、中心市街地などにおいて新たに事業を起こす起業家のチャレンジや、若い世代が魅力的に感じる業種の起業の支援を行います。

(2) 職住近接や多世代住居・近居住居、生活環境の確保により定住者を増やす

① 数値目標

指 標	現状値	目標値
社会増減数 (転入人数－転出人数)	平成 26 年 -338 人	平成 31 年 -150 人

② 基本的方向

昭和工業団地をはじめ、市内事業所の従業員の市内居住を進めるとともに、二世帯や三世帯居住の推進、家族・親子の近居の推進、さらには様々な世代に対応できる環境の充実、まちのブランドイメージの向上により、転出抑制、転入増加を目指します。

(3)結婚・出産・子育てしたいと思われる環境を構築する**① 数値目標**

指 標	現状値	目標値
大和郡山市で子どもを 生み育てたいと考えて 転入してきた市民の割合	平成 26 年 8.3%	平成 31 年 15.0%

② 基本的方向

地域、家庭、企業、行政の連携と役割分担により、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に取り組むとともに、地域の特色ある教育環境をより一層充実・展開し、子育てしたい憧れのまちを目指します。

(4)時代に合った安全・安心な地域づくりと地域資源の有効活用により好循環を導く**① 数値目標**

指 標	現状値	目標値
これからも大和郡山市に 住んでいたいと思う 市民の割合	平成 26 年 62.7%	平成 31 年 75.0%

② 基本的方向

本市に適したコンパクトなまちづくりを進め、公共施設や公共交通環境をその主体も含め再整備するとともに、高齢者も暮らしやすい環境を構築します。

また、広域交通網の整備やリニア中央新幹線の間駅設置の提案に対し、国や県、周辺自治体と連携し、それらの経済波及効果を十分に受けることが出来るよう取り組みます。